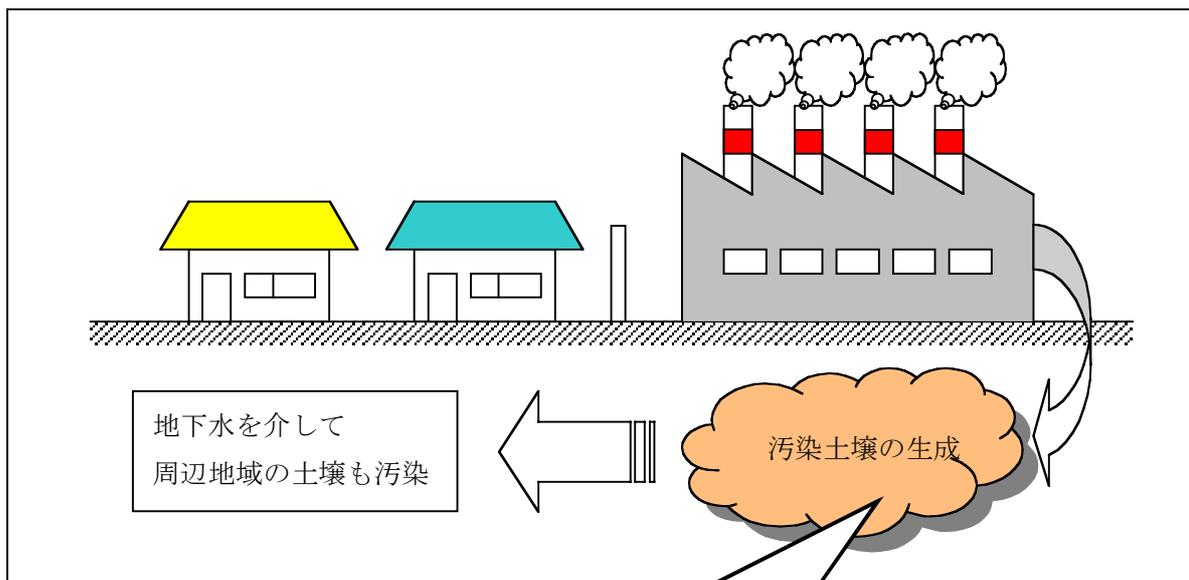


< 土のクリーニング？ 土壤汚染への取り組み >

最近、土壤汚染への関心が高まっています。土壤汚染とは、その土地で、工場や廃棄物処分場、ガソリンスタンド等を操業していた際に、人体に有害な物質を地中に浸透させてしまった結果、土地が汚染されてしまうことですが、土壤汚染の恐ろしさは、汚染がその土地だけにとどまらず、土地の地下を流れる地下水まで汚染することにより、知らず知らずの間に、周辺の土地や河川までも汚染してしまうことです。その結果、地域住民への健康被害をもたらすだけでなく、その地域一帯の土地の不動産価値を低下させることにもなってしまいます。



汚染物質とは、

- ・重金属類（鉛・水銀など）
- ・石油
- ・PCB・ダイオキシン 他

現在、土壤汚染に関する調査が必要な事業所は、全国に約92万8000箇所あるといわれています。土壤を汚染する主な物質は、工場跡地や工場周辺で見られる、鉛・六価クロム・水銀などの重金属類、電子機器工場やクリーニング工場などで洗浄剤として使用されていたトリクロロエチレンやテトラクロロエチレンなどの揮発性有機化合物（VOC）、ガソリンスタンドの跡地などで見られる石油類などがあり、また最近では、廃棄物処分場周辺の土中から検出されるポリ塩化ビフェニール（PCB）や、ダイオキシンも問題となっています。

これまでの土壤汚染への対策は、汚染土壌を外部へ廃棄したり、汚染源の周りを遮水壁やシートなどで囲うことによる、汚染の広がりを防ぐものが主でした。しかしこの方法は、完全なものではなく、汚染状態はずっと放置されたままでした。さらに、汚染土壌の廃棄によって、廃棄した場所の土壤を汚染する新たな原因ともなってしまいます。

そこで最近になって、根本的な対策として汚染土壌の浄化技術の開発が進められています。汚染物質の種類や土中での状態（液状・ガス状など）、土壌の種類（粘土層・砂礫層など）によって浄化の方法はさまざまで、

- ・ 汚染土壌を直接洗浄する方法
- ・ 汚染土壌を加熱して揮発性の汚染物質を気化させる方法
- ・ 土中の微生物を活性化させて汚染物質を取り除く方法
- ・ 人工透析の理論を採り入れ、汚染地下水を浄化する方法

などがあり、それぞれ今後大きな需要が見込まれています。